

第3期「終活サロン」

～ 第1回 終活のすすめ方 ～

日時：2021年11月27日（土） 午前11時から

場所：ファミリースペース東京塚

講師：くまもと県民葬祭株式会社 代表取締役相談役 森 輝和

●生老病死と終活

もともとは仏教の言葉ですが、人間は生まれた瞬間から老いが始まり病に伏し、いつかは必ず死を迎える、これは避けがたいことで、誰でも等しいものです。それぞれのシーンにおいて、人生終焉に向けてのことや、死後の事務や供養、お墓のことなどを一本の線で結んで考えるのが終活を行ううえで大切なことです。

終活を始めるタイミング：少なくとも病に伏す前が好ましい
有効なツールとして、エンディングノートを活用しましょう

エンディングノートは、法的な拘束力はありませんが、ご自身の希望や家族へ伝えておきたいことを記すものです。それに対し、遺言書は、財産の処分方法などを指定する書面で、法的拘束力が生じます。

●死とは社会との清算

死とは生命が途絶えることに加え、社会との清算という側面があります。人や組織とのつながりを清算する意味からも、終活を行う意義があります。

リアルなつながりだけでなく、SNSやネットのつながりも考慮しましょう。

●エンディングノートを書く託す

深刻ではなく真剣に書きましょう

いつでも書き換えられる、という軽い気持ちで書きましょう

誰にみられるかわからない、という前提で書きましょう

書いたノートは、葬祭事業者に預けその旨を家族に伝えるか、
保管場所を信頼できる家族に伝えておくことが大切です。

エンディングノートによっては、財産の処分方法や預貯金の明細などの記入欄があるものもありますが、誰が見るかわからないという前提に立って、慎重に対応しましょう。